

防災教材 研究開発に力



広島工業大

映像や模型 被害伝える



4年

近藤 莉奈

先進的な防災教材の研究開発に力を入れている。

3Dプリンターを使用し、災害の多い地域の地形

模型を作成。実際に災害が発生した際に想定される土

砂の動きや河川の様子をプロジェクトで映し出す。災害による被害を生々しく伝え、避難に

生かしてもらおう狙いだ。

地域防災に向けた取り組みの一環として、広島市佐

伯区社会福祉協議会、下河内地区の地域住民と合同

で、災害の歴史を学び、今後の具体的な取り組みについて協議した。今後も、連携していくという。

防災士会リーダーの環境

学部建築デザイン学科4年、土居雄太郎さん(22)は

「プロジェクトマップや3Dプリンターを使

用した模型作成は工学系の大学ならではの。学生目線で

地域防災に取り組めるよう、今後もアイデアを形に

していきたい」と意気込んでいた。地域防災減災教育

推進センター幹事の小西智久准教授(46)は「学生防

災士の活動により、地域の防災意識が高まればうれ

しい」と期待していた。



プロジェクトマップを使った模型を見てアイデアを話し合うメンバー